ウズベキスタン南部ファヤズテパ遺跡出土壁画の公表に向けて －2017年度－

はじめに　奈文研国際遺跡研究室は、2003年度からアフガニスタン・イラクおよび周辺諸国の文化遺産保存修復に関わる事業を東京文化財研究所と共同で実施してきたが、近年は中央アジア諸国への協力が中心となってきている。本稿では、ウズベキスタン南部のファヤズテパ遺跡で出土した壁画の公表に向けて、2017年度に実施した作業の概要を報告する（2016年度に実施した作業の概要は『紀要 2017』に報告した）。

ファヤズテパ遺跡　ファヤズテパ遺跡はウズベキスタン南部のテルメズ市の北郊に残る仏教寺院址で、カラテパ仏教遺跡の北東１㎞に位置する。1968年から1976年にL. I. Al'baumによって発掘され、長方形のプランを持つ僧院（118×34m）と仏塔から成ることがあきらかにされた。2002年から2006年に遺構の保存修復作業が実施された際に、補足的な発掘調査がおこなわれ、遺構の平面図が新たに発表された（図20）[1]。また、出土した土器の銘文やコインの年代をもとに、この施設はクシャーン朝期（１～３世紀）を通して仏教寺院として機能したが、５世紀前半には衰退し、その後は墓地として二次利用されたと推定されている[2]。

ファヤズテパ遺跡出土壁画：男性供養者群像　僧院は南東部分（A）、中央部分（B）、北西部分（C）の３つの部分から構成され、中央部分には20ほどの僧房が中庭を取り囲むように配置されている。壁画は中央部分の入口（B19）から入って正面に見える部屋（B８、6.4×6.2m）とその周辺から発見されている。入って右側の壁（北西壁）から前壁（入口のある壁）にかけて、横一列に並ぶ男性供養者を表す壁画が残されていた。見つかった壁画は、合成樹脂で表面を強化し、適当な大きさに分割した後、壁面から剥ぎ取られた。人物の頭部を表す断片は、保存修復家によって処置され、現在、ウズベキスタン国立歴史博物館に展示されている[3]。一方、人物の肩より下の部分だけが残っている断片は、未処置のまま収蔵庫に保管され、発見時に部分的に撮影された白黒写真と簡単な描起図だけが公表された（図21）[4]。

頭部は欠損するものの、つま先を外側に開いて立つ姿勢や服装、ブーツが、マトゥラーで出土したカニシカ１世（在位127～150年頃）の立像（図22）[5]など、クシャーン朝の王族を表す石像と酷似することから、L. I. Al'baumは、この壁画がクシャーン朝期に製作されたと推定している。一方、最近、ファヤズテパ遺跡の壁画について専論を発表したC. Lo Muzioは、壁画の製作年代をクシャーン朝期より遅く、４世紀末かそれ以降に下げることを

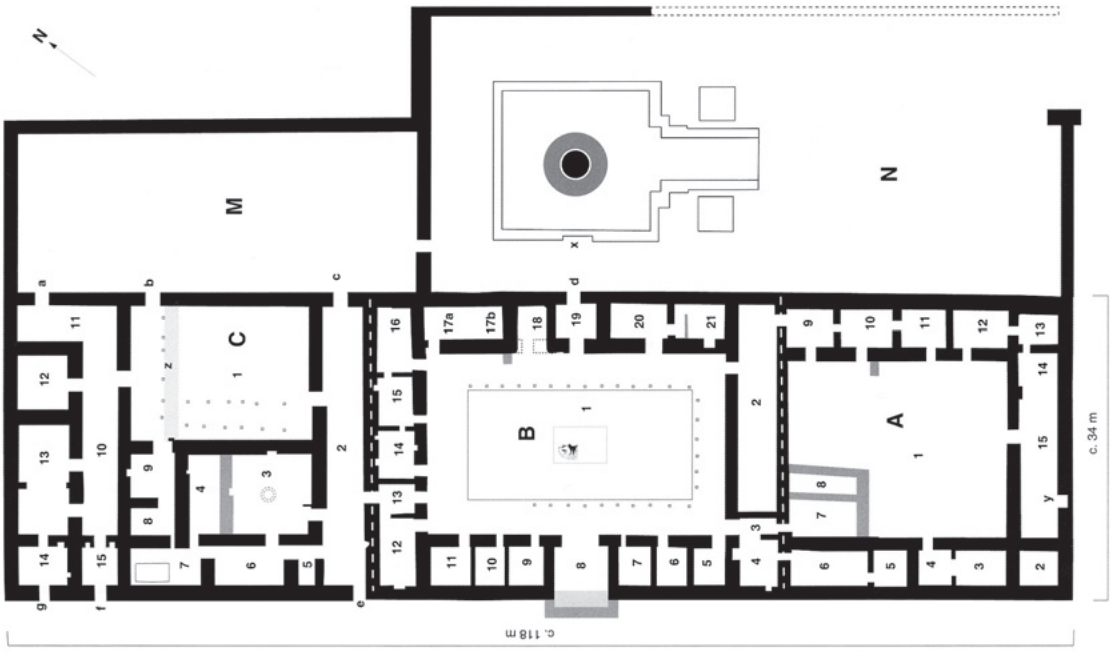

図20　ファヤズテパ遺跡平面図

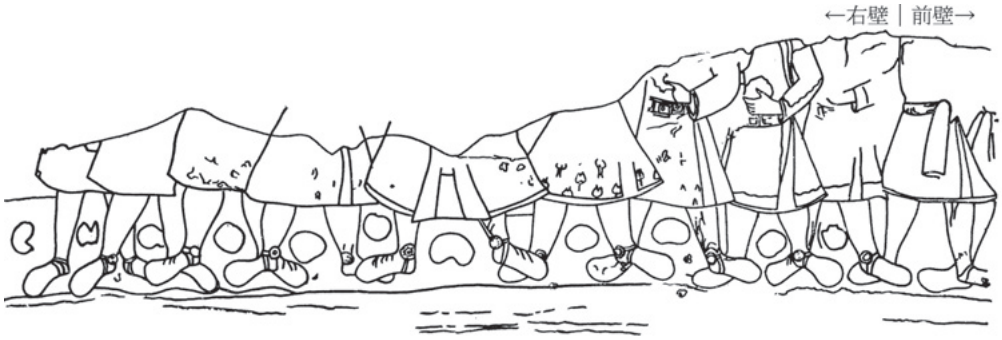

図21　男性供養者群像（描起図）

図22　マトゥラー出土カニシカ王像

提案している[6]。描起図をもとにした研究には限界があり、壁画の公表が急務となっている。

壁画の保存修復作業　2016年度の予備調査の結果をふまえて、2017年度から男性供養者群像を表す壁画の公開に向けた作業を開始した。これまでの調査で、剥ぎ取りの際に壁画は13点の断片に切断され、１から13までの番号がつけられたこと、そのうちの10点（断片１～５、９～13）がウズベキスタン科学アカデミー考古学研究所に保管されていることを確認している。壁面から剥ぎ取られた壁画は、長さが約６ｍ、高さは場所によって異なり、約1.1～1.6m、厚さは約１～２㎝である。

2017年度は５点の断片に対して保存修復作業をおこなった。作業は考古学研究所保存修復室の室長Marina ReutovaとGulnora Ahadova、Gulbahor Pulatovaがおこなった。過剰な合成樹脂の除去、表面のクリーニング、裏面の強化（脱塩処理した土にパラロイドB72アセトン溶液を混合して作成したペーストを塗布）をおこなった。クリーニング作業の結果、表面の状態が均質になり、図像がかなり見えやすくなった。彩色層の欠損部分が本来の図像を見えにくくしている場合には、最低限の補彩をおこなった（図23）。

図23　処置後の壁画（断片11）、中央人物の足の部分

今後の課題　2018年度は、残りの５点の壁画断片の保存修復作業をおこなう予定である。所在のわからない３断片について、国立歴史博物館に保管されていないかどうか調査する。また、国立歴史博物館に展示されている２人の男性供養者像の上半身は、Ｂ８室の前壁で発見されたと報告されている。本事業で修復対象となっている男性供養者群像との位置関係についても調査する予定である。

なお、本稿で報告した壁画断片の保存修復は、住友財団の文化財維持・修復事業助成を受けて実施した。

（影山悦子・Berdimuradov Amridin／ウズベキスタン科学アカデミー考古学研究所・**Kazim Abdullaev**／イスタンブール大学**）**

註

1）Pidaev, Sh., T. Annaev, G. Fussman, *Monuments buddhiques de Termez* I: Catalogue des inscriptions sur poteries par G. Fussman, Paris, 2011, pl.21.
2）前掲註１文献。
3）田辺勝美・前田耕作『世界美術大全集』東洋編　15　中央アジア、小学館、1999、pl.155。
4）Al'baum, L. I., "Živopis' svjatilišča Fajaztepa", G. A. Pugačenkova, *Kul'tura Srednego Vostoka: Izobrazitel'noe prikladnoe iskusstvo*, Tashkent, 1990.
5）前掲註３文献、fig.73。
6）Lo Muzio, C., "Remarks on the paintings from the Buddhist monastery of Fayaz Tepe (Southern Uzbekistan)", *Bulletin of the Asia Institute* 22 (2008), 2012.

参考文献

加藤九祚『中央アジア北部の仏教遺跡の研究』シルクロード学研究４、1997。